



「ジェンダー・ギャップ指数2021」を公表

世界経済フォーラムが令和3年3月に発表したジェンダー・ギャップ指数の日本の順位は、156ヶ国中120位、先進国で最低レベルという結果となりました。

各国の男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数は、「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野が評価対象となり、日本はそのうち「経済」「政治」で低い評価となりました。

政治分野では、女性の参加割合が低く、国会議員の女性割合は9.9%となっています。

経済分野では、管理職の女性割合は14.7%で、意思決定の場に女性が少ない状況です。また、女性の平均所得は男性より43.7%低くなっていることも問題視されています。

格差を改善するには

● 仕事と家庭の両立の負担軽減

女性は働く上で、産休、育休、子育てなどにより、キャリア形成が難しく、子育てと仕事の両立に悩み仕事をあきらめてしまう女性が多いのが現状です。子育ては女性だけが担うものではなく、家庭では男性の家事・育児の参加が不可欠です。

● 働きやすい職場環境づくり

国は「女性活躍推進法」を施行し、「採用や昇進についての平等」、「仕事と家庭が両立できる環境づくり」「仕事と家庭の両立について意思決定できる」を基本原則に女性が働きやすい環境を企業に求めています。保育や介護サービスの充実、ワークライフバランスの実現、男性の家事・育児・介護への参画促進、女性の管理職の登用などを推進していく必要があります。

● 幼少期からの平等意識形成

家庭や学校で、男はこうあるべき、女はこうあるべき、といった偏ったジェンダー観を植え付けないように働きかけ、知識とスキルを習得できるように学習の機会を設けることが大切です。

順位	国名	値	前年値
1	アイスランド	0.892	0.877
2	フィンランド	0.861	0.832
3	ノルウェー	0.849	0.842
4	ニュージーランド	0.840	0.799
5	スウェーデン	0.823	0.820

11	ドイツ	0.796	0.787
16	フランス	0.784	0.781
23	イギリス	0.775	0.767
24	カナダ	0.772	0.772
30	アメリカ	0.763	0.724
63	イタリア	0.721	0.707
79	タイ	0.710	0.708
81	ロシア	0.708	0.706
87	ベトナム	0.701	0.700
101	インドネシア	0.688	0.700
102	韓国	0.687	0.672
107	中国	0.682	0.676
119	アンゴラ	0.657	0.660
120	日本	0.656	0.652
121	シエラレオネ	0.655	0.668

(内閣府資料より)

身近なジェンダーについて考える

● 日頃の接し方でこんなことはありませんか？

男子の方が厳しく叱責される、女子の方が甘やかされている、「男らしくしなさい。女の子らしく振る舞いなさい。女の子だからお手伝いしなさい。」など、こうした性別による接し方の違いにも不平等は存在します。日常生活の中で、男はこうあるべき、女はこうあるべき、といった「無意識の偏見」の存在や男女格差について考えてみませんか。

【お問合せ】 企画調整課 企画調整グループ ☎63-1111 内線211